

にのみや ぜき  
二宮堰 ■ C・5



二宮堰は、田川から新堀、宝木用水へ水を引き込む役割をはたしているところです。

新堀、宝木用水は、この二宮堰を始まりとして徳次郎、宝木地区を経て、宇都宮市の中心部を流れている人工の川です。

新堀は江戸時代末期に、二宮尊徳（金次郎）、その弟子の吉良八郎と村の人々の協力によって造られましたが、徳次郎地区を潤しただけで、宝木地区の台地に水を引き上げることができませんでした。そこで、さらに、村の人々が資金を集め、尊徳の設計、八郎の指導で宝木用水が完成しました。

エドヒガン ■ B・3



エドヒガンは、江戸のヒガンザクラという意味です。この木は推定樹齢約500～600年（指定時）、樹高約19mと、宇都宮随一の巨木で、幹は地上約5mのところまで二つに分かれ、生育は良好です。3月末には淡い紅色の美しい花をつけます。

[昭和42年3月25日 市指定]

いしなだ  
石那田のウメ ■ C・3



白花を咲かせる大木で、推定樹齢は約250年（指定時）、樹高は約6m。

地上約80cmのところまで5本の太枝となっていて分れています。主幹は割れてはいるものの、各太枝から、まんべんなく旺盛に緑色の新枝を伸ばし、樹勢は良好です。昭和24年（1949）のキティ台風で北側にやや傾き、その状態のまま現在に至っています。

[平成元年3月22日 市指定]

※個人の宅地内にあるため、許可を得て見学して下さい。

おおみねやま  
大峯山のヤシャブシ C・5



ヤシャブシは、各地の山中に生える落葉高木で、果球が昔、歯を染める「おはぐろ」に使用されたのでオハグロノキとも呼ばれています。

大峯山のヤシャブシは、山頂北東の斜面にあり、推定樹

いしなだ や さかじんじゃてんのうさいつけまつり や たい  
石那田八坂神社天王祭付祭屋台 C・3

天王祭は、病気除けとして行われるスサノオノミコトの祭です。石那田八坂神社では、4年に一度、7月の第3土曜日から最終土曜日まで行われます。付祭は最終土曜日の夜に行われ、猿田彦を先頭に、神輿・6地区（桑原・六本木・原坪・岡坪・仲根・坊村）の屋台が各集落から神社へと繰り出します。

屋台は、江戸時代から明治時代にかけて造られた彫刻屋台です。彫刻は富田（現・大平町）に住んでいた磯邊敬信や後藤正秀、神山政五郎らの手によるものです。

[昭和49年3月1日 市指定]



桑原屋台



六本木屋台



原坪屋台



岡坪屋台



仲根屋台



坊村屋台

いしなだ や さかじんじゃてんのうさいつけまつり さる た ひこめんしょうぞくとういっしき  
石那田八坂神社天王祭付祭猿田彦面装束等一式 ■ C・3



石那田八坂神社天王祭の最終日（7月の第3土曜日）の深夜、ご神体を神輿に乗せ仮殿より神社本殿へご神体に遷す「上遷宮」が行われます。この行列は猿田彦が先導し、猿田彦の他にも獅子頭、子どもが扮する稚児を先頭に、袴、陣笠を着用の上、帯刀した仲内地区の住民が連なり行列の露払いを務めます。

[昭和56年11月4日 市指定]